

老朽化消火器の破裂事故にご注意を！

先般、兵庫県姫路市において火災の際に使用した点検未実施の消火器（1989年製造）が破裂し、消火を行った従業員が負傷する事故が発生しました。

また、昨年、愛知県名古屋市のにおいても、消火を行っていた従業員が消火器の破裂により負傷する事故が発生しています。

点検を実施していない消火器は、火災時にその機能が有効に発揮できないおそれがあることはもとより、破裂等重大な事故につながるおそれが高まることから、定期的に点検を実施してください。

底部の腐食・老朽化

屋外に設置された消火器は、本体下部より腐食が進むことがあります。

溶接部とその周辺の腐食などが代表的な下部の腐食です。

この他にも、使用に耐えない鋭いキズや、サビを落としても腐食の残るものは危険です。



上部の腐食・老朽化

消火器上部のキャップは、老朽化によって、割れやキズを生じることがあります。

腐食の進行は、キャップのメッキに光沢がなくなり、シワ、スジ、表面にボツボツができてきます。

ホース部との接続も腐食により劣化します。

このような消火器は危険です。



消火器の置き場所

- ・湿度の高い場所、常時水や直射日光に当たる場所、火気器具の近くは避け、誰もが見やすく、使いやすい場所に設置してください。
- ・転倒しないようにしてください。

破裂事故は、
こんな状況で発生しています。

住宅・野外等で放置されていた消火器で、
事故が起こるケースが多い

腐食しやすい環境
(屋外、軒下、水回り等)



保守管理が不十分

経年劣化
本体容器が腐食して
強度が低下

圧力で破裂
加圧式の消火器で、放射
操作に伴い本体容器内の
圧力が急激に上昇し破裂

消火器の操作者が受傷

変形や損傷、サビがあるような老朽化した消火器にはむやみに触らず、消火器メーカー又は消火器販売店等の専門業者にご相談ください。



駿東伊豆消防本部